



環境省 平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業が宇部地域で開始されました！ テーマ「こども達の生きる力を育むための地域教育向上プロジェクト～新たな宇部方式の構築～」

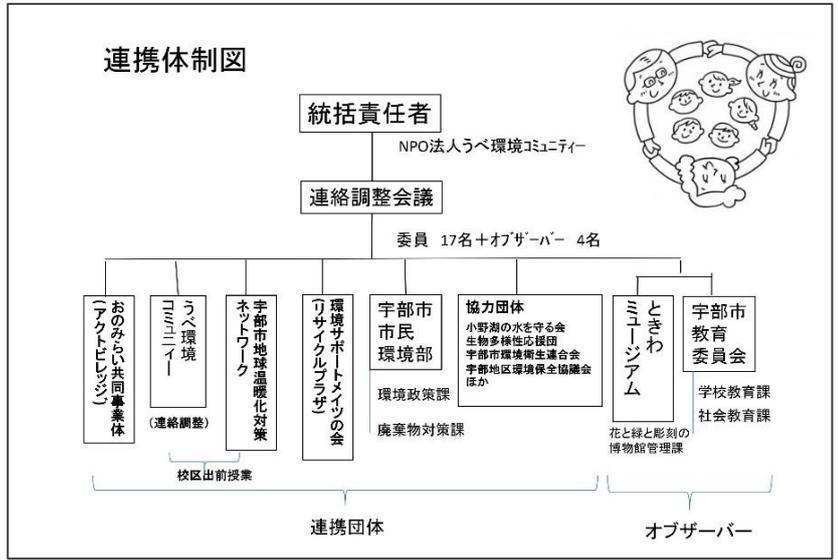
うべ環境コミュニティーから、本年3月末に環境省の「平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」に応募したところ、採択されて6月中旬から事業が開始されています。

事業目的は、こども達が環境について、自ら学び、考え、行動するようになることを目指して、コミュニティパワーを高め、産官学民の連携による、地域教育力を向上させるシステムを構築することを目的としています。地域貢献が期待される環境学習指導者の新たな人材を発掘し、コミュニティスクールの充実や、子どもたち全体に行き届く基本的な環境学習の機会を充実させることを重点に置いた環境学習拠点との連携等を通じた体制整備を進めることを目標としています。

環境学習に係る連携体制と、事業内容は以下の通りです。

本事業では連携団体の協働取組がうまく機能することが重要です。連携体制図に示すように、うべ環境コミュニティーを中核として、宇部市や多くの環境関連団体が協働することを目指しています。環境学習拠点として3ヶ所（リサイクルプラザ、アクトビレッジ、校区ふれあい

宇部市の環境学習拠点が協働して進める環境教育



センター)を設定し、それぞれの拠点における環境学習の検討WGを発足させました。現在、各WGは、環境学習内容の充実を目指して検討を行っています。本年夏以降、上記の環境学習拠点において環境学習指導員の養成も兼ねた授業を実施して、教材の開発や環境学習指導者のスキルアップを目指すとともに、各連携団体間の協働体制の強化に努めます。なお、校区ふれあいセンターWGにおいては、地元企業の生産活動現場における環境対策の実際を体験学習し、今後の企業現場における環境学習拠点の可能性を検討することとしています。

また、宇部市における環境学習の人材の発掘及び育成を図るため、環境学習指導者（候補者を含む）対象の研修会を開催します。上記のような実践活動を通して、産官学民より、人材を発掘し、活用を図るため、環境学習指導者リストを再編成し、宇部市内の環境教育拠点や教育委員会等を通じて、周知・広報を実施します。特に市内の大学、高専、高校などの専門家、小学校、中学校の教育関係者と、宇部市、企業、市民の連携・協働は宇部方式の特徴でもあり、皆様のご協力を切にお願いする次第です。（薄井洋基）

第2回 環境サロン

人工光合成の研究最前線

一持続可能な社会を目指す研究推進で、
できたこと、できなかったこと

薄井洋基さん(神戸大学名誉教授、
うべ環境コミュニティー副理事長)

とき:7月2日(土)13:30～
ところ:山口大学工学部 D21 番教室

究極の炭酸ガス排出抑制技術である人工光合成の研究の最新情報を、中学生もわかる程度にかみ砕いて解説します。また後半では持続可能な循環型社会の構築に向けた研究拠点の創出を目指して努力した結果、どのようなことが実現し、どのようなことが未完成なのかをお話します。

資料代…各回 200円(高校生以下無料)

※サロン参加者には環境地域通貨「エコハ」2枚進呈!

会場の場所や入構方法は、ポータルサイト「うべっくる」で、ご覧頂けます。

まちなか銀天おそうじ隊募集!

まちなかおそうじ隊は、月に一度、まちなか環境学習館周辺や塩田川、中川などを掃除しています。メンバーは、その日集まってきた方々。今回は分別・計量も行います。みんなで「まち」をきれいにしませんか。社会貢献と、掃除後は茶話会のひと時を♪

7月31日(日)15:00～

まちなか環境学習館前に集合です。
(道具は用意しています)
おそうじ隊参加者には
環境地域通貨「エコハ」2枚進呈!

宇部市環境学習ポータルサイト「うべっくる」



うべっくる 検索

環境サロンは、身近な環境問題などをテーマに、みんなで気軽に学びあえる場、語りあえる場です。一度だけのご参加も歓迎です。

宇部野鳥保護の会



宇部野鳥保護の会は、野鳥の保護を通じて郷土の自然環境保全に努める目的で、1977年(昭和52年)5月8日に発足しました。現在会員は90名で、活動内容は主に市内を中心に、全国一斉の野鳥飛来数調査や小野湖周辺で春秋の野鳥観察、10月から翌年3月まで毎月1回の小野湖全域オシドリ調査と野鳥観察会、また会員研修として、毎年1回講師を招いて宇部自然保護協会の皆さんと合同で室内例会を行っています。

2016年度は、1.宇部市及び周辺の自然環境を活用した野鳥観察を通して会員の親睦を図り、生物多様性や自然環境保全の大切さを共有し、郷土の自然保護と環境保全に努める。2.小野湖のオシドリ観察会に中心市街地からの参加者を増やし、地域活動への参加を促進すると共に、自然環境の指標となる野鳥のデータを蓄積する。3.自然保護団体との連携、協働により会の活性化を図るという3つの活動目標を決め、活動を行います。

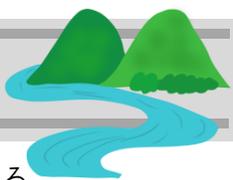


当会では随時会員募集をしています。
ご興味のある方はぜひ事務局までご連絡下さい。



事務局：渡部潤子
TEL・FAX: 0836-51-4664
Eメール：j-tanaka@c-able.ne.jp

最近思うこと



宇部市北部の衰退が急速に進んでいる。耕作放棄地が急速に増え、学校も閉鎖に追い込まれている。現在農業を営んでおられる方はほとんど80歳前後の方である。あと2から3年でほとんどの方は、農業従事者が困難となり、後継者がいないため、耕作放棄地は急激に増大すると思われる。国も、県も、市も活性化の必要性を叫んでいるものの効果的で具体的な政策は見えてこない。まず活性化するためには、地域に金をおとし、外に金を持ち出さないことである。すなわち生産性のある事業を行い、製品の付加価値を高めてより高く販売しなければならない。現在盛んに行われている一過性のイベントや、お祭りではあまり期待できないと思う。北部では、お米、お茶、新鮮な野菜が生産されている。それにも係わらず、多くの市民が、外部で生産された製品を購入し消費している。コンビニにおいてもほとんど市外で生産された製品が並んでいる。お金はどんどん市外に流出している。製品を原材料として売のではなく、まず六次産業化*を進め、可能な限り付加価値を高め、高価で高品質な最終製品に仕上げる必要がある。最終消費者が負担する金額のうち何%を一次産業生産者が手にし



まちなかエコ市場で販売される宇部市北部 小野の新鮮野菜やお花

用語解説

六次産業化とは？

農林水産物を収穫・漁獲(第一次産業)するだけでなく、加工(第二次産業)し、流通・販売(第三次産業)まで手がけることで、農林水産業の経営体質強化を目指す経営手法。



ているか、お米だと50%程度、ペットボトルのお茶にいたってはもっと小さいと思われる。六次産業化は、避けて通れないように思う。

高額の農業機械を必要とし、汗にまみれて働く、一次産業部分を担当する人の取り分があまりにも少ない。六次産業化を進め、後半の甘い部分も甘受できるように六次産業化を進めなければならない。そのためには現在一次産業部分を担っている人たちが個人の垣根を越えて、勉強し、工夫しなければならないように思う。

(津島 榮)



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時~21時

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)